

選択と集中で活力ある県づくりを(令和元年度決算から)

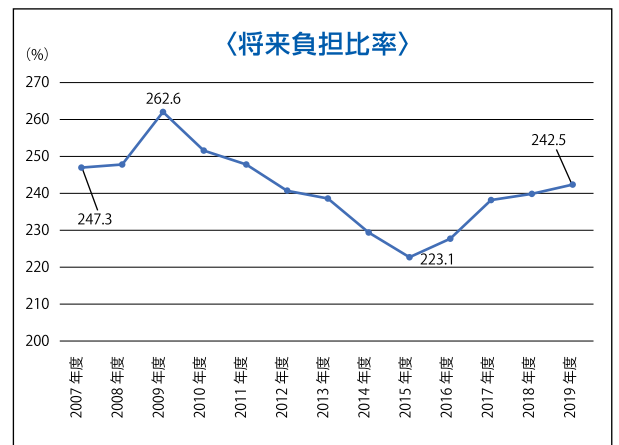
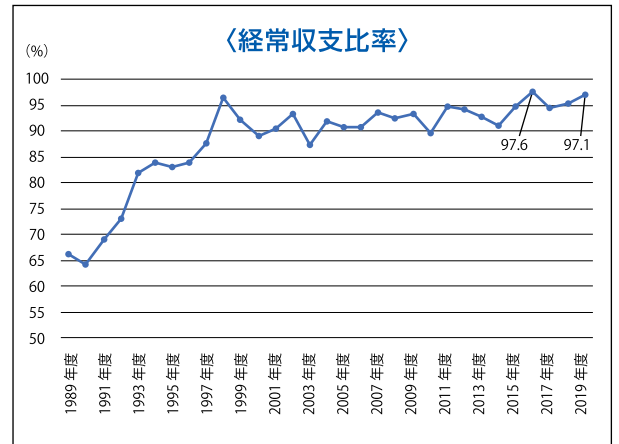
静岡県の令和元年度決算が公表されました。一般会計の歳入額は約1兆2053億(前年度比101.1%)、歳出額は約1兆1932億円(前年度比101.2%)となっています。

他の自治体と比べて注意すべき指標を2つ紹介します。

1つは「経常収支比率」の悪化です。97.1%とこれまででは2016年度の97.6%に次ぐ高い水準になりました。ごく簡単に言えば、自由に使えるお金の余裕が減っているということです。昨年度の実績で47都道府県のまん中ほどであり、あまりほめられた水準とはいえません。

「将来負担比率」は夕張市の財政破綻により設定された指標で、当初、県は抑制傾向でしたが昨年度は242.5%と4年連続で悪化しています。国の早期健全化基準(400%)未満ではありますが、平成30年度は全国ワースト8位であり、今後も悪化が懸念されます。

コロナ禍もあり厳しい財政状況の中、将来のあるべき姿を描き、選択と集中で効率的かつ活力ある県政を進めていきます。



〈経常収支比率〉

地方税、普通交付税のように毎年度経常的に得られる収入を「経常一般財源」といいます。経常一般財源に対し、人件費、扶助費、公債費等の経費のうち毎年度経常的に発生し、充当すべき財源が特定されてないものの比率を「経常収支比率」といいます。

経常収入に対する経常経費の割合であり、財政の弾力性を示す指標とされています。100%を超えると経常収支が赤字、逆に100%を下回れば黒字で、小さいほど投資その他の政策的な支出に回す余裕があることを意味します。

〈将来負担比率〉

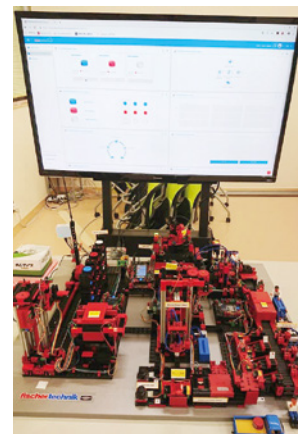
一般会計等の借入金や将来支払うことになる負担等の現時点での残高を表す指標で、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示します。

IoT推進ラボの活用(産業委員会の活動から)

静岡県工業技術研究所に昨年開設された「IoT推進ラボ」を訪問しました。ここには県内中小企業へのIoT導入を支援するため、最新の工作機器や後付け接続機器などを体験できる展示コーナーや、模型を使ったモデル工場、プログラミング教材を活用したモデルなどが展示されています。

IoTの導入は徐々に進んでいますが、どこから手をつければいいかわからない…という事業者さんも多いと思います。

9月定例会で浜松工業技術支援センターにもサテライト拠点を設置する予算を議決しました。こうした事例に身近に触れると参考になるのではないのでしょうか。ぜひ多くの方に活用いただければと思います。



ラジオでお届け! 県政情報



ふじのくに県民クラブは、FMHarO! 76.1で、毎週土曜日午後5時から「イブニングサテライト」、木曜日午前7時30分から「モーニングサテライト」を放送中です。私は第4土曜日夕刻を担当しています。県政のホットな話題を生放送でわかりやすくお伝えしますのでぜひお聴きください。

第4土曜日
17:00より!

創ろう!元氣な浜松&静岡県

田口 章は持ち前のフットワークで、元氣いっぱい活動しています。日常の活動は、ホームページやブログでも報告しています。インターネットがご利用できる方はぜひご覧ください。



田口章 で 検索

